

資料

基礎看護学実習 I における看護学生の学習意欲への教育効果

— 基礎看護学実習 I 前後の変化から —

金川真理¹⁾ 福森絢子¹⁾ 清水佑子¹⁾ 生田奈美可¹⁾ 長川トミエ¹⁾¹⁾ 宇部フロンティア大学人間健康学部看護学科

キーワード; 看護系大学生, 基礎看護学実習, 学習意欲, 看護教育

I はじめに

看護教育における臨地実習は, 学内の講義・演習で習得した知識と技術を医療施設等の実践の場で学習する機会として重要である. なかでも基礎看護学実習 I は, 学生が最初に体験する実習である. 石綿¹⁾は, 基礎看護学実習 I の実習効果は, 看護のイメージ化, 動機の強化, 生活改善の意欲向上, 自己の課題の明確化, 学習意欲の向上であったと報告している. また, 藤井ら²⁾の研究結果によると看護基礎教育は, 全国的に, 早期体験学習 (Early ExPosure) として臨地実習を経験させる傾向にある.

また岩脇ら³⁾は, 1 年生前期の早期体験学習として 1 日の基礎看護学実習により, 学生は看護の対象者を知ると同時に看護の役割を理解し, 今後の自分に必要なことは何かを考える機会になったと報告している. そこで, 本学では, 2 月から 3 月にかけて実施していた基礎看護学実習 I を平成 25 年度から 1 年生前期の 6 月から 7 月にかけて 3 日間実施した. 基礎看護学実習 I の実習目的は, 看護活動の実際に触れ, 実習を通して今後の学習のイメージ形成ができ, 看護への動機づけを強化することであった. また, 平成 25 年度の実習では, 従来の病院等の医療施設の実習施設だけでなく, 保健センターや老人保健施設を含む 3 施設で行ない, 予防・健康増進・治療・療養の場を提供する施設の役割と機能について理解することも目的として付加した.

高橋ら⁴⁾は実習での楽しさや看護の魅力を感じることが学習意欲を引き出していたと報告している. しかしながら, 1 年生前期に 3 施設の実習施設で 3 日間実施する平成 25 年度の基礎看護学実習 I によって, 学生の学習意欲を引き出すことができるのか懸念された. そこで今回, 我々は本学で実施した基礎看護学実習

I に参加した看護学生の実習前後での学習意欲に対する教育効果について検討し, 今後の基礎看護学実習 I に対する実習方法の示唆を得たいと考えた.

II 研究目的

平成 25 年度の基礎看護学実習 I に参加した看護学生に対して, 実習前後における学習意欲への教育効果を明らかにする.

III 研究方法

1. 調査対象

対象者は, 基礎看護学実習 I に参加した A 大学看護学科 1 年生 100 名のうち, 調査に同意を得られた学生を対象とした. 質問紙配布数 100 名中, 回収数は実習開始前 52 名 (回収率 52.0%), 実習終了後 89 名 (回収率 89.0%) であった. 有効回答数は実習開始前 38 名 (有効回答率 38.0%), 実習終了後 73 名 (有効回答率 73.0%) であった.

2. 調査期間

基礎看護学実習 I 開始前の平成 25 年 5 月 29 日から 5 月 31 日を以後実習前とし, 基礎看護学実習 I 終了後の平成 25 年 7 月 17 日から 19 日を以後実習後とし, 2 回実施した.

3. 調査方法

基礎看護学実習 I に参加した A 大学看護学科 1 年生 100 名に対して, 実習前および実習後の 2 回に分けて質問紙調査を実施した. 実習前の調査は実習オリエンテーション終了後, および実習後の調査は実習後のまとめの時間終了後に配布し, 回収は回収箱にて行なった.

調査内容は対象者の背景、永嶋⁵⁾の作成した看護学生学習意欲尺度、一柳ら⁶⁾の作成した看護学生の入学・職業選択動機尺度で構成した。看護学生学習意欲尺度は33項目で構成され、当てはまる5点、やや当てはまる4点、どちらともいえない3点、やや当てはまらない2点、当てはまらない1点の5段階回答法とした。看護学生の入学・職業選択動機尺度は15項目で構成され、非常に当てはまる4点、少し当てはまる3点、あまり当てはまらない2点、全く当てはまらない1点の4段階回答法とした。

4. 分析方法

基礎看護学実習 I に参加した看護学生の実習前後の学習意欲に対する教育効果を明らかにすることを目的とし、実習前後の回収率（実習前 52.0%，実習後 89.0%）に差があるため、本研究では対応のない t 検定により比較した。解析には統計ソフト SPSS ver.16.0 を使用し、有意水準は 5%未満とした。

5. 基礎看護学実習 I の概要および 1 年生前期カリキュラムの状況

表 1 基礎看護学実習 I の概要

I. 実習目的			
地域の保健・医療・福祉の場を見学することにより看護活動の実際に触れ、予防、健康増進、治療、療養の場を提供する施設の役割と機能について理解する。さらに、実習を通して今後の学習のイメージ形成ができ、看護への動機づけを強化することができる。			
II. 実習目標			
1.対象者の予防、健康増進、治療、療養を支えるための保健・医療・福祉の役割・機能について説明できる。			
2.看護に必要なコミュニケーションの経験ができる。			
3.看護学生に必要な態度やマナーを身につけることができる。			
4.実習体験を情報交換し、学びを共有する。			
5.実習体験を通して、看護学生としての自分自身を振り返ることができる。			
III. 実習方法			
1. 実習時期：1 年次前期			
2. 実習期間：平成 25 年 5 月 29 日～7 月 17 日（水曜日のみ）			
3. 実習日程			
実習内容	月日	実習場所	学生数
学内オリエンテーション	5/29(水)	学内	100名
実習1 医療施設	6/5(水)	B病院	25名
	6/12(水)	C病院	25名
実習2 (午前)学内演習 (午後)D保健センター	6/19(水)	学内演習	50名
	6/26(水)	D保健センター	50名
実習3 老人保健施設	7/3(水)	E老人保健施設	20名
		F老人保健施設	15名
		G介護老人保健施設	15名
実習のまとめ	7/17(水)	E老人保健施設	20名
		F老人保健施設	15名
		G介護老人保健施設	15名
実習のまとめ	7/17(水)	学内	100名

基礎看護学実習 I の概要については表 1 の通りであった。1 年生前期のカリキュラム状況は、専門教育科目のうち、人体の構造と機能、基礎看護学実習 I の実習開始前後を通じて、看護学概論、基礎看護方法論 I を習得中であった。

IV 倫理的配慮

調査の際には、事前に口頭および書面にて、研究の

目的と方法等について説明した。さらに、研究協力は自由意志であり、拒否した場合にも何ら不利益を蒙ることはないこと、個人情報の保護に留意し調査することを説明した。質問紙は無記名とし、質問紙の提出をもって同意とした。実習前後のデータ管理については、統計的に処理を行ない、個人が特定されないように厳重に取り扱った。

V 結果

1. 対象者の背景

表 2 対象者の背景

項目		実習前 n=38(%)	実習後 n=73(%)	有意確率
性別	男	5 (13.2)	15(20.5)	0.34
	女	33(86.8)	58(79.5)	
年齢		18.8±3.01歳	18.7±3.33歳	0.70
卒業した高校科別	普通科	33(86.8)	58(79.5)	0.33
	衛生看護科	0(0.00)	3(4.11)	
	その他	5(13.2)	12(16.4)	
大学入学までの体験	看護体験あり	21(55.3)	34(46.6)	0.39
	ボランティア体験あり	31(81.6)	59(80.8)	0.92
生活形態	ひとり暮らし	11(28.9)	21(28.8)	0.66
	自宅生	17(44.7)	28(38.4)	
	寮生	10(26.3)	24(32.9)	
身体における主観的 健康状態	非常に悪い	2(5.26)	2(2.74)	0.44
	悪い	6(15.8)	10(13.7)	
	普通	18(47.4)	34(46.6)	
	良い	7(18.4)	14(19.2)	
	非常に良い	5(13.5)	13(17.8)	
精神的ストレス状況 における主観的な 自己評価	非常に悪い	1(2.63)	5(6.85)	0.97
	悪い	8(21.1)	20(27.4)	
	普通	21(55.3)	26(35.6)	
	良い	6(15.8)	14(19.2)	
	非常に良い	2(5.26)	8(11.0)	

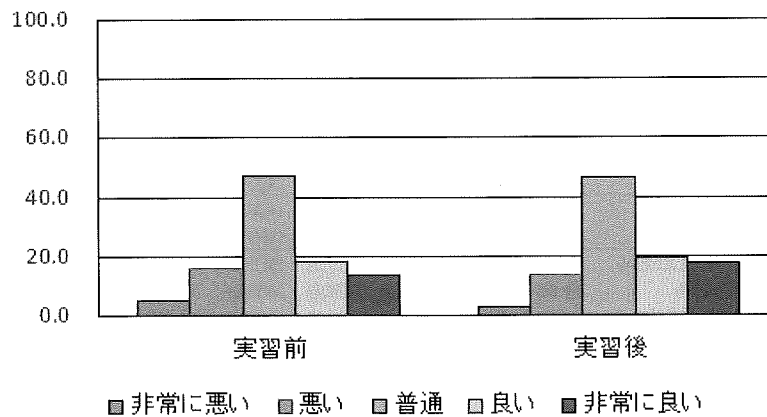


図 1 実習前後の身体における主観的健康状態に関する自己評価

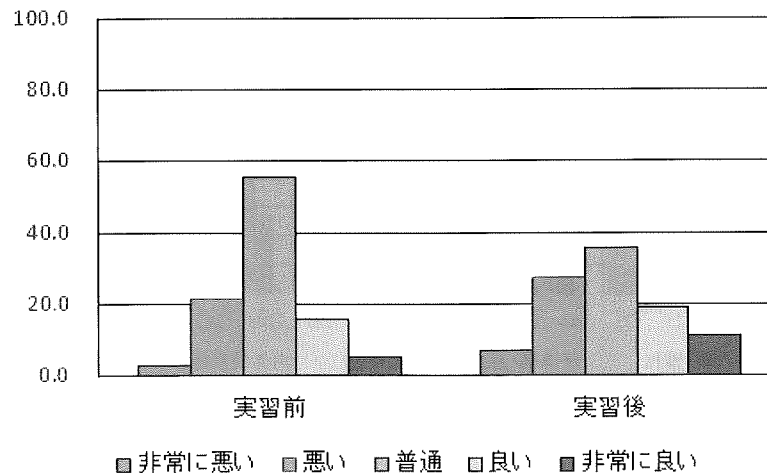


図 2 実習前後の精神的ストレス状況における主観的な自己評価

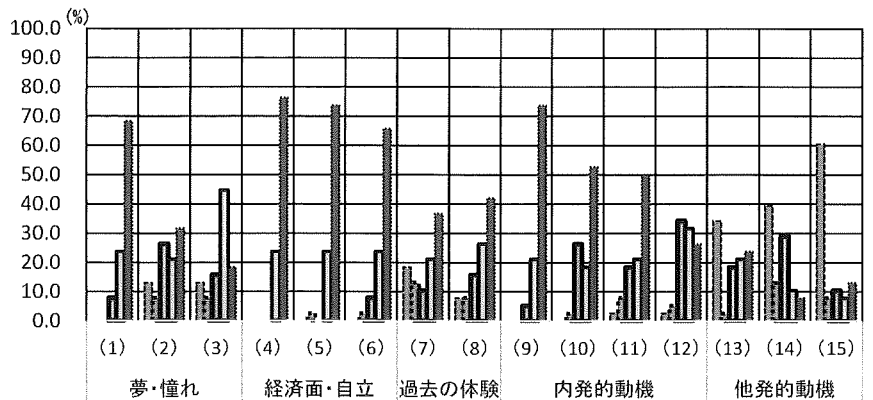
看護学科1年生における実習前の人数は、女性33名(86.8%)、男性5名(13.2%)の38名であり、実習後は、女性58名(79.5%)、男性15名(20.5%)の73名であった(表2)。平均年齢は、実習前は18.8±3.01歳、実習後は、18.7±3.33歳であった。卒業した高校科別でみると、実習前は、普通科33名(86.8%)、衛生看護科0名(0.0%)、その他5名(13.2%)であった。実習後は、普通科58名(79.5%)、衛生看護科3名(4.11%)、その他12名(16.4%)であった。大学入学までの体験状況では、実習前は、看護体験あり21名(55.3%)、ボランティア体験あり31名(81.6%)であった。実習後は、看護体験あり34名(46.6%)、ボランティア体験あり59名(80.8%)であった。生活形態でみると、実習前は、ひとり暮らし11名(28.9%)、自宅生17名(44.7%)、寮生10名(26.3%)であった。実習後は、ひとり暮らし21名(28.8%)、自宅生28名(38.4%)、寮生24名(32.9%)であった。

身体における主観的健康状態に関する自己評価では、実習前は、非常に悪い2名(5.26%)、悪い6名(15.8%)、普通18名(47.4%)、良い7名(18.4%)、非常に良い5名(13.5%)であった。実習後は、非常に悪い2名(2.74%)、悪い10名(13.7%)、普通34名(46.6%)、良い14名(19.2%)、非常に良い13名(17.8%)であった(表2)。実習前後を比べて有意な差は認められなかった(表2, 図1)。現在の精神的ストレス状況における主観的な自己評価では、実習前は、非常に悪い1名(2.63%)、悪い8名(21.1%)、普通21名(55.3%)、良い6名(15.8%)、非常に良い2名(5.26%)であった。実習後は、非常に悪い5名(6.85%)、悪い20名(27.4%)、普通26名(35.6%)、良い14名(19.2%)、非常に良い8名(11.0%)であった(表1)。実習前後を比べて有意な差は認められなかった(表2, 図2)。

2. 実習前後の看護学生の入学・職業選択動機

表3 実習前後の看護学生の入学・職業選択動機

因子	項目	実習前 (n=38)				実習後 (n=73)					
		当てはまらない (%)	やや当てはまらない (%)	どちらともいえない (%)	やや当てはまる (%)	当てはまる (%)	当てはまらない (%)	やや当てはまらない (%)	どちらともいえない (%)	やや当てはまる (%)	当てはまる (%)
夢・憧れ	(1) やりがいのある職業だから	0(0.0)	0(0.0)	3(7.89)	9(23.7)	26(68.4)	1(1.37)	3(4.11)	8(11.0)	16(21.9)	45(61.6)
	(2) 幼い頃から憧れていた職業だから	5(13.1)	3(7.89)	10(26.3)	8(21.1)	12(31.6)	15(20.5)	9(12.3)	15(20.5)	12(16.4)	22(30.1)
	(3) 医療系のテレビやドラマの影響を受けたから	5(13.1)	3(7.89)	6(15.8)	17(44.7)	7(18.4)	18(24.7)	10(13.7)	12(16.4)	20(27.4)	13(17.8)
経済面・自立	(4) 資格がとれ、一生続けられる職業だから	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	9(23.7)	29(76.3)	4(5.48)	1(1.37)	4(5.48)	20(27.4)	44(60.3)
	(5) 収入が安定しているから	0(0.0)	1(2.63)	0(0.0)	9(23.7)	28(73.7)	3(4.11)	2(2.74)	6(8.22)	20(27.4)	42(57.5)
	(6) 経済的に自立できるから	0(0.0)	1(2.63)	3(7.89)	9(23.7)	25(65.8)	4(5.48)	2(2.74)	9(12.3)	20(27.4)	38(52.1)
過去の体験	(7) 自分の病気・通院の体験から	7(18.4)	5(13.1)	4(10.5)	8(21.1)	14(36.8)	20(27.4)	11(15.1)	15(20.5)	13(17.8)	14(19.2)
	(8) 家族・身近な人の病気・通院の体験から	3(7.89)	3(7.89)	6(15.8)	10(26.3)	16(42.1)	13(17.8)	4(5.48)	18(24.7)	16(21.9)	22(30.1)
内発的動機	(9) 人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから	0(0.0)	0(0.0)	2(5.26)	8(21.1)	28(73.7)	3(4.11)	2(2.74)	10(13.7)	20(27.4)	38(52.1)
	(10) 人と関わる仕事をしたかったから	0(0.0)	1(2.63)	10(26.3)	7(18.4)	20(52.6)	3(4.11)	6(8.22)	11(15.1)	22(30.1)	31(42.5)
	(11) 人の身体や心に関する学問に興味があったから	1(2.63)	3(7.89)	7(18.4)	8(21.1)	19(50.0)	5(6.85)	4(5.48)	21(28.8)	17(23.3)	28(38.5)
他発的動機	(12) 社会に貢献したいから	1(2.63)	2(5.26)	13(34.2)	12(31.6)	10(26.3)	7(9.59)	6(8.22)	17(23.3)	20(27.4)	23(31.5)
	(13) 親や教師などに勧められたから	13(34.2)	1(2.63)	7(18.4)	8(21.1)	9(23.7)	21(28.8)	10(13.7)	12(16.4)	19(26.0)	11(15.1)
	(14) 他にやりたいことがなかったから	15(39.4)	5(13.1)	11(28.9)	4(10.5)	3(7.89)	34(46.6)	17(23.3)	9(12.3)	6(8.22)	7(9.59)
	(15) 看護の学校が近かったから	23(60.5)	3(7.89)	4(10.5)	3(7.89)	5(13.1)	42(57.5)	10(13.7)	11(15.1)	4(5.48)	6(8.22)



■項目 当てはまらない □項目 やや当てはまらない ■項目 どちらともいえない □項目 やや当てはまる ■項目 当てはまる

図3 実習前の看護学生の入学・職業選択動機

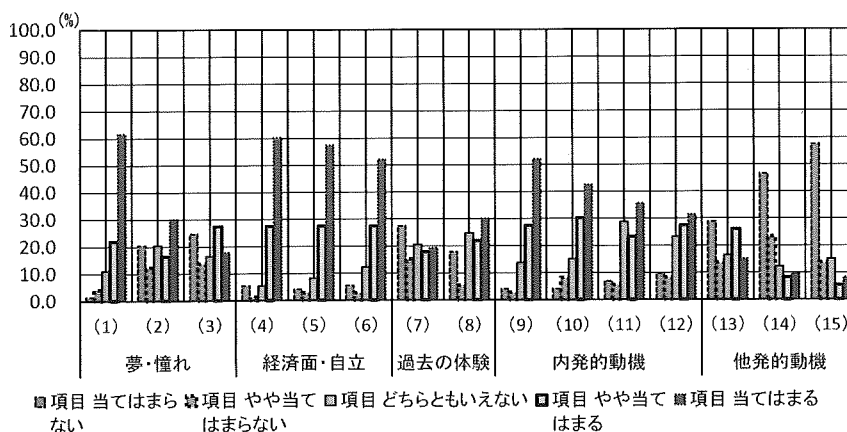


図 4 実習後の看護学生の入学・職業選択動機

実習前後の入学・職業選択動機尺度の項目のうち、実習前では、経済面・自立の因子項目である「資格がとれ、一生続けられる職業」29名(76.3%)、「収入が安定している」28名(73.7%)、内発的動機の因子項目である「人の役に立ちたい、人を助けたいと思った」28名(73.7%)、夢・憧れの因子項目である「やりがいのある職業」26名(68.4%)、「経済的に自立できる」25名(65.8%)の項目順に当てはまると回答した者が多かった(表3, 図3)。実習後では、夢・憧れの因子項目である「やりがいのある職業」45名(61.6%)、経済面・自立の因子項目である「資格がとれ、一生続けられる職業」44名(60.3%)、「収入が安定している」42名(57.5%)、内発的動機の因子項目である「人の役に立ちたい、人を助けたいと思った」および「経済的に自立できる」が共に38名(52.1%)で、項目順に当てはまると回答した者が多かった(表3, 図4)。

一方、実習前では、他発的動機の因子項目である「看護の学校が近かった」23名(60.5%)、「やりたいことがなかった」15名(39.4%)、「親や教師などに勧められたから」13名(34.2%)の項目順に当てはまらないと回答した者が多かった。実習後では、他発的動機の因子項目である「看護の学校が近かった」42名(57.5%)、「やりたいことがなかった」34名(46.6%)、「親や教師などに勧められたから」21名(28.8%)の項目順に当てはまらないと回答した者が多かった。

3. 実習前後での学習意欲の変化

看護学生学習意欲尺度のうち、学習態度の因子項目では、「課題のレポートを書くときは、必ず資料を収集してから取り組む」(実習前2.71±0.90, 実習後2.86±0.82)、「レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある」(実習前1.74±0.80, 実習後1.92±1.01)、「学校である公開講座や講演会に行ったことがある」(実習前1.63±0.71, 実習後1.81±0.83)

で実習前と比べて実習後に学習意欲が上昇傾向を示した(表4)。リーダーシップ役割の受容の因子項目では、「グループやクラスを引っばっていくのは得意だ」(実習前1.97±0.94, 実習後2.22±0.92)、「集団の話し合いなどで進行役を頼まれることが多い」(実習前2.13±1.04, 実習後2.22±0.89)、「クラスで話がまとまらないと自分から率先してまとめ役になることが多い」(実習前2.03±0.82, 実習後2.29±0.86)、「クラスのみならずから学習やクラスの決定事項に関することについて相談されることが多い」(実習前2.05±0.99, 実習後2.19±0.78)、「自分の発言がグループ内の他の学生や課題達成に影響を与えていることがある」(実習前2.11±0.89, 実習後2.26±0.87)で実習前と比べて実習後に学習意欲が上昇傾向を示した。中でも、「みんながいる場面で積極的に発言する方だ」(実習前2.03±0.89, 実習後2.41±0.91)の項目では実習後は実習前と比べて学習意欲が有意に高かった(P<0.05)。将来に対する展望の因子項目では、「将来について友人と会話をすることがある」(実習前2.95±0.96, 実習後3.12±0.73)、「将来の進む道は自分で決めている」(実習前1.92±0.71, 実習後2.00±0.69)で実習前と比べて実習後に学習意欲が上昇傾向を示した。中でも、「看護系以外の友人とも看護に関する話し合いをする」(実習前2.26±1.01, 実習後2.70±0.97)の項目では実習後は実習前と比べて学習意欲が有意に高かった(P<0.05)。小集団学習への適性の因子項目では、「グループワークはみんなでディスカッションできるので楽しい」(実習前3.03±0.97, 実習後3.07±0.81)で実習前と比べて実習後に学習意欲が上昇傾向を示した。しかし、「グループワークをしていると熱中して時間を忘れてしまう」(実習前3.05±0.77, 実習後3.05±0.81)の項目では変化はみられなかった。その他の項目では、実習前と比べて実習後に学習意欲が低下傾向を示した。その中でも、演習・実習への期待の因子項目では、「病院の実習や学校内の技術実習を今

から楽しみにしている」(実習前3.16±0.79, 実習後3.04±0.74), 「早く技術実習が始まらないかと思う(思っていた)」(実習前3.05±0.87, 実習後2.99±0.77), 「学校内の技術実習ではどのようなことが学べるか興味がある(興味があった)」(実習前3.34±0.78, 実習

後3.07±0.73)の3項目において学習意欲が低下傾向を示した。また, 学習態度の因子項目のうち「疑問があったら教師に質問する方だ」(実習前2.50±0.92, 実習後2.15±0.81)の項目で, 実習後は実習前と比べて学習意欲が有意に低かった(P<0.05)。

表4 実習前後での学習意欲の変化

因子	項目	実習前	実習後	実習前から実習後の変化	有意確率
学習態度	(1)学校の課題がなくても看護関係の本を見に図書館へ行くことが多い	1.87±0.88	1.81±0.83	↓	0.72
	(2)図書館をよく利用する	2.61±1.15	2.58±1.01	↓	0.89
	(3)将来の目標を達成するための情報収集を行っている	2.32±0.96	2.25±0.85	↓	0.70
	(4)課題のレポートを書くときは必ず資料を収集してから取り組む	2.71±0.90	2.86±0.82	↑	0.37
	(5)看護や保健医療福祉に関する記事を切り抜き整理している	1.79±0.91	1.74±0.83	↓	0.77
	(6)書店等へ行って看護に関する本を買うことがよくある	2.08±1.00	1.86±0.90	↓	0.25
	(7)黒板に書かれたこと以外に重要と思われる内容もノートに書いている	3.13±0.74	2.99±0.84	↓	0.37
	(8)将来の目標達成のために今から学習していることがある	2.26±0.80	2.22±0.90	↓	0.80
	(9)レポート作成のために図書館以外の他の施設に行くことがある	1.74±0.80	1.92±1.01	↑	0.34
	(10)疑問があったら教師に質問する方だ	2.50±0.92	2.15±0.81	↓	0.04 [※]
	(11)学校に掲示してある看護に関する勉強会や講演会の参加申し込みを目を通す	2.45±1.01	2.21±1.00	↓	0.23
	(12)学校である公開講座や講演会に行ったことがある	1.63±0.71	1.81±0.83	↑	0.27
	(13)教員から紹介された文献や本には必ず目を通す	2.24±0.85	1.96±0.74	↓	0.76
	(14)看護に関する講演会や学会等には関心がない(*)	1.92±0.75	2.07±0.67	↓	0.30
リーダーシップ役割の受容	(15)グループやクラスを引っばっていくのは得意だ	1.97±0.94	2.22±0.92	↑	0.19
	(16)集団の話し合いなどで進行役を頼まれることが多い	2.13±1.04	2.22±0.89	↑	0.64
	(17)みんながいる場で積極的に発言する方だ	2.03±0.89	2.41±0.91	↑	0.04 [※]
	(18)クラスで話がまとまらなると自分から率先してまとめ役になることが多い	2.03±0.82	2.29±0.86	↑	0.13
	(19)クラスのみならず学習やクラスの決定事項に関することについて相談されることが多い	2.05±0.99	2.19±0.78	↑	0.42
	(20)自分の発言がグループ内の他の学生や課題達成に影響を与えていることがある	2.11±0.89	2.26±0.87	↑	0.38
	(21)クラスの中でまとめ役をするのは苦手だ(*)	2.92±1.02	2.63±0.97	↑	0.14
演習・実習への期待	(22)病院の実習や学校内の技術実習を今から楽しみにしている	3.16±0.79	3.04±0.74	↓	0.44
	(23)早く技術実習が始まらないかと思う(思っていた)	3.05±0.87	2.99±0.77	↓	0.68
	(24)学校内の技術実習ではどのようなことが学べるか興味がある(興味があった)	3.34±0.78	3.07±0.73	↓	0.07
	(25)学校内の技術実習や病院の実習をするのは今から苦痛である(*)	2.24±0.91	2.00±0.76	↑	0.15
	(26)卒業後の進路を決めている	2.82±1.04	2.75±0.95	↓	0.75
将来に対する展望	(27)将来に対する明確な目標を持っていない(*)	1.84±0.89	2.12±0.90	↓	0.12
	(28)看護系以外の友人とも看護に関する話し合いをする	2.26±1.01	2.70±0.97	↑	0.03 [※]
	(29)将来について友人と会話をするがある	2.95±0.96	3.12±0.73	↑	0.28
	(30)将来の進む道は自分で決めている	1.92±0.71	2.00±0.69	↑	0.57
小集団学習への適性	(31)グループワークでは作業を分担するだけで、みんなでディスカッションして学びを深めることはない(*)	2.53±0.92	2.55±0.82	↓	0.90
	(32)グループワークをしていると熱中して時間を忘れてしまう	3.05±0.77	3.05±0.81	→	0.99
	(33)グループワークはみんなでディスカッションできるので楽しい	3.03±0.97	3.07±0.81	↑	0.81

(*)は逆転項目で点数は合計点が低いほど学習意欲が高い

※P<0.05

VI 考察

基礎看護学実習Iによって看護学生の学習意欲がどのように変化したかを明らかにし, 基礎看護学実習Iにおける学習意欲に対する教育効果を検討した。学習意欲全体を実習前後で検討した結果, 実習後は実習前と比べて, リーダーシップ役割の受容因子については, 全ての項目で学習意欲が上昇していた。中でも, 「みんながいる場で積極的に発言する方だ」という項目において学習意欲が有意に高かった。これは, 今回の基礎看護学実習Iでは, 保健センター実習前の学内演習時に1グループを各5名で編成しグループ学習の場を設定したこと, また, 実習のまとめ時には, 実習での学びを振り返る場として1グループを4~9名で編成し, 全体発表準備や全体発表時などグループで

意見交換する場を多く設けたことがリーダーシップ役割の受容因子を向上させる結果につながったと考える。

一方, 学習態度因子および演習・実習への期待因子については, 実習後は実習前と比べて学習意欲が低下傾向にあった。加藤ら⁷⁾は, 実習前後の学習意欲に関する内発的動機づけを高める場面が少なかった理由として, 基礎看護学実習Iは見学実習であるため, 患者を受け持ったり, 直接的なケアを行ったり, 自らの知識を駆使して実習で生かす場がないことから, 看護を学ぶ過程での楽しさや喜びを感じにくいのではないかと述べている。今回の基礎看護学実習Iでも, 地域の保健・医療・福祉の場を見学することを実習目的に掲げていたことから, 看護を学ぶ過程での楽しさや喜びを感じにくいため, 学習態度因子の低下につながった

と考える。中でも、「疑問があったら教師に質問する方だ」という学習態度因子の項目において実習後は実習前と比べて学習意欲が有意に低下した。これは、実習施設ごとに学生受け入れ可能人数が異なるため、教員の担当学生数が8～25名と担当学生に幅が生じたことから、疑問があっても、教師への質問が難しく、他の学習行動で対処する者が増えたのではないかと考える。このことから、学生に質問等が生じた場合に、教員と関わりやすい実習環境へと改善できるよう、今後検討していく必要があると考える。また、加藤ら⁷⁾は、基礎看護学実習Ⅰを通して学生は演習・実習への期待を向上させることができたことも報告している。本研究結果では演習・実習への期待を向上させることはできなかった。その違いとして、加藤ら⁷⁾の実習方法では、実習期間が1週間（5日間）であったこと、前日に施設別オリエンテーションを実施し、その後、学内での事前学習を経て、翌日の学外実習に取り組み、実習翌日に前日の学外実習のまとめに取り組んでいた。しかし、今回の基礎看護学実習Ⅰの実習方法では、実習期間が実習受け入れ施設の学生受け入れ可能人数に関連し5月29日から7月17日までの7週間（5日間）と長期間であったこと、学内オリエンテーションにて3施設の概要に関するオリエンテーションを行い、学外実習当日に各実習施設内にて施設別オリエンテーションを実施していたこと、学内での事前学習は保健センター実習当日のみ実施し、学外実習のまとめは3施設全ての実習終了後に実施していたことが挙げられた。これらのことから、実習や演習のイメージを具体化させるためには、実習期間の見直しや施設別オリエンテーション、事前学習、学外実習のまとめの実施時期など実習内容の検討が必要であると考えられる。

村田⁸⁾は、看護学生の学習意欲と看護職志望動機・学校選択動機に有意な関連があると報告している。このことから、実習前の看護学生の入学・職業選択動機をみると、「資格がとれ、一生続けられる職業」、「収入が安定している」という経済面・自立の因子項目で当てはまるが最も高かった。また、「やりがいのある職業だから」という夢・憧れの因子項目、および「人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから」という内発的動機の因子項目でも当てはまるが高かった。一方、「看護の学校が近かったから」、「他にやりたいことがなかったから」、「親や教師などに勧められたから」という他発的動機の因子項目では、当てはまらないが最も高かった。これら経済面・自立の因子項目と他発的動機の因子項目の2因子の結果は、一柳ら⁶⁾の研究結果と同様であった。これらのことから、一柳ら⁶⁾の対象者と同様に、本研究の対象者は自らの意志で看護職を志して入学してきていると思われる。永嶋⁵⁾

は、看護職を経済的な安定として求めている学生ほど、学習態度が積極的でリーダーシップへの役割を發揮する傾向にあると報告している。しかし、今回の結果では、リーダーシップへの役割を發揮する教育効果にもつながっていた。本研究対象者は経済面・自立因子、「やりがいのある職業だから」という夢・憧れの因子、「人の役に立ちたい、人を助けたいと思ったから」という内発的動機の因子が高いことを考慮しながら実習内容について今後検討していくことが、学生の学習意欲に対する教育効果の向上につながっていくうえで重要であると考えられる。

VII 結論

基礎看護学実習Ⅰの実習後は実習前と比べて、リーダーシップ役割の受容因子で学習意欲を向上させる効果がみられた。しかし、学習態度因子および演習・実習への期待因子で学習意欲を向上させる効果はみられなかった。

VIII 本研究の限界と今後の課題

本研究は、基礎看護学実習Ⅰによって看護学生の学習意欲がどのように変化したかを明らかにし、基礎看護学実習Ⅰの学習意欲に対する教育効果を検討した。しかし、大学1施設で実施した調査であり、また、実習前後の回収率が実習前52.0%に対して、実習後89.0%と差があること、さらに、実習期間が長期であり、カリキュラム等の影響も考えられるため一般化は困難である。今後の実習計画立案および実習評価を行う上で質問紙の回収方法を含めた検討を実施していく必要がある。

謝辞

本研究にご協力いただきました看護学生の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 石綿啓子：基礎看護学実習における学生の学び—患者理解に焦点を当てて—、高崎健康福祉大学紀要、(4)、113-124、2005。
- 2) 藤井徹也、門井貴子、須賀京子：大学における基礎看護学臨地実習の実習時期とその内容、日本看護学教育学会誌、14、221、2004。
- 3) 岩脇陽子、滝下幸栄、今西美津恵他：早期体験学習としての基礎看護学実習の学習効果と実習満足度に関連する要因、京都府立医科大学紀要、17、31-39、2008。
- 4) 高橋清美、中野榮子：学生が抱く早期看護実習Ⅰの主

観的満足感：内発的動機付けによる実習効果，福岡県立大学看護学研究紀要，1(1)，29-39，2003.

- 5) 永嶋由理子：看護学生の学習意欲の検討，山口県立大学看護学部紀要，(5)，39-45，2001.
- 6) 一柳陽子，谷山牧，山崎千寿子他：看護学生の入学・職業選択動機の実態と構造，川崎市立看護短期大学紀

要，14，21-27，2009.

- 7) 加藤法子，淵野由夏，永嶋由理子他：基礎看護学実習における教育効果の検討：実習前後の学習意欲の変化から，福岡県立大学看護学研究要，5(2)，52-60，2008.
- 8) 村田恵子：看護学生の学習意欲の深まりと看護観の変容，看護展望，5(4)，18-22，1980.